

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○5月4日～

先週は日米ともに政策金利を据え置くと発表しました。

為替相場は4月30日に160円を超えてきたところで夕方以降に介入が入ったようです。

160円台から155円台まで数時間で5円ほどドル／円レートが急落しました。

連休中でも介入が行われるのではという噂はあり、介入直前には片山・財務大臣から「断固たる措置を取るタイミングが近づいている」という発言もありました。

今後も断続的に為替介入を行う可能性があり、円安トライに歯止めがかかるかどうかを注視したいです。今回の介入の金額は5兆円程度という話です。

何度か介入すれば資金がなくなってしまうため介入の効果は微妙です。

日銀は利上げを見送りましたが反対意見も出ており、物価高(インフレ)が止まらなくなるのではという懸念の声もあります。

もし、介入しても円安が止められないような事態になれば、利上げや量的金融引き締めで円安を止めるしかなくなるかもしれません。

ホルムズ海峡の閉鎖が長引いていることから再び原油は1バレルが100ドルを超えてきました。

株価は今のところAIや半導体関連が堅調なため高値圏にありますが原油高や為替が不安定な動きになれば株価も調整入りのリスクがでてきます。

先週はナスダックやS&P500は高値更新となりましたがNYダウは停滞した動きとなっています。

日本株もまだら模様です。日経平均に比べてTOPIXや小型株は弱い動きとなっています。

先行きが不透明なこともあり、資金が限られた分野に流れているように見えます。

政府はナフサ不足なども当面問題がないと言っていますが現場からはすでに材料が入ってこないという声が多く出ています。

5月後半から6月くらいには多くの業界で製造やサービスを止めるしかないという話もあり、連休明けの動きが心配です。

そして、先週はアラブ首長国連邦(UAE)が石油輸出国機構(OPEC)を脱退するというニュースもありました。この影響で原油価格がどうなっていくのかも気になります。

株に比べて動きが少なかった為替市場ですが日本が介入に踏み切ったことで、今後の動きを慎重に見ていく必要があります。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

先週は緩やかに円安が進みましたが160円台後半までドル/円が上昇してきたところで介入が入りました。4～5時間で5円程急落して、155.5円あたりまで下げました。

その後やや戻して、翌日に再び155.5円程度まで下げましたが157円まで戻してマーケットは終わっています。

155.5円がダブルボトムになり、157.5円を超えてくる動きになれば再度160円あたりまで戻す可能性があります。

4月は何度か159円台後半で頭打ちになっているため159円台では上値が重くなりそうです。

160円台で介入が入ったことで、160円超えでは無理な売買は控えたいです。

下値は156.3円あたりを維持できれば円高リスクはおさまりそうです。

156円を割り込む動きとなれば円高リスクが再燃するため警戒がいります。

<気になるクロス円>

クロス円も介入の影響で大きく下げているペアが多いです。

ただし、30日の安値より1日の安値が切り上げているペアも多く、上昇に期待したいです。

先週安値を割り込むような動きにならない限り、戻してくる可能性が高く、タイミングを見ながら買いのチャンスを狙いたいです。

株価の急落など再び相場が大きく動いた場合は、クロス円もリスク回避の動きが強まるため慎重に取引していきたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では日銀・金融政策決定会合議事要旨などがあります。

米国では3月製造業新規受注、3月貿易収支、4月サービス部門・総合PMI(改定値)、4月ISM非製造業景況指数、3月雇用動態調査(JOLTS)求人件数、3月新築住宅販売件数、4月ADP雇用統計、前週分新規失業保険申請件数、4月雇用統計、5月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州ではドイツとユーロ圏で4月製造業・サービス業PMI(改定値)、ユーロ圏で3月卸売物価指数、3月小売売上高、ドイツで3月製造業新規受注、3月鉱工業生産などがあります。

ほかには、オーストラリアで政策金利、カナダで4月失業率、中国で4月貿易収支の発表などがあります。